

「牧師室」(2016年2月28日)

「一燈園」と言う総合社会福祉事業団があります。1904年西田天香と言う人によって創立されています。その理念には、「社会の一隅を照らす一つの燈火でありたい。長年にわたり、社会の進展に寄与して来た高齢者を敬愛し、心身の健康の保持と安定を図り、老後をより幸せに過していただくように」とあります。種々の社会貢献活動や事業奉仕活動をしており、その根本には、「懺悔の生活」と言う、キリスト教にとっても同感できるものがあります。

次のように説明されています。「自然にかなった生活をすれば、人は何物をも所有しないでも、また働きをお金に換えないでも許されて生かされるという信条のもとに、常に懺悔の心を持って無所有奉仕の生活が出来る」と言うのです。キリスト者として耳を傾けるに値するものがあります。

聖書に記されているように、初代教会の信者たちは、「財産共有制」でした。使徒言行録にこう書かれています。「信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、財産や持ち物を売り、おのおの必要に応じて、皆がそれを分け合った」(2章44-45節)。そのような敬虔な生活の中から、アナニヤとサフィラと言う代金ごまかす夫婦も出て来ました。人間の心と意志の弱さを露呈しています(同5章)。そういうことがあったとしても、初代教会の信者の働きは、長く語り継がれてきました。

「一燈園」は、現在事業を拡大し、学校経営にも及んでいますが、その基本理念は変わっていません。わたしたちは「レント(受難節)」の半ばを迎えました。日常的生活のあり方は、皆さん一人一人にまかされていますが、どんなに小さな存在であっても、社会の一隅を灯す光でありたいと思います。